

# TC205/WG7

## TC274とのJWG12 設立 について

2023年3月15日

古賀 靖子（九州大学）

ISO/TC205/WG7「屋内視環境」の動き 1999年以降

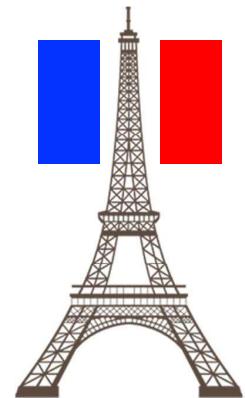
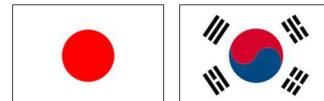
- TC205/**WG7** 「建築環境設計 – 屋内視環境」 2007年 再始動
  - 2002年 WG7 コンヴィーナ不在  
CIEに対して WG7が独自のスコープを持ち得るか？ 確認
  - 2003年 関連規格 (**CIE, CEN/TC169, ISO/TC159/SC5**) の精査
    - ❖ 光と照明      ❖ 物理環境の人間工学(視覚と照明)
  - 2004年 ISO/WD 16817 「建築環境設計 – 屋内視環境」取り消し
  - 2005年 フランスからの報告 「**視覚に関する屋内環境の快適性**」
    - ISO/TC205とCIEとのJWG提案
    - フランス主導で**視環境に関するタスクグループ**設置
  - TC205の「**一般原則**」(ISO 16813)と整合する  
**視覚快適性の設計基準**に関するISO規格が必要  
→ CIEへ提案しよう！



## ISO/TC205/WG7「屋内視環境」の動き 1999年以降

### ○ TC205/WG7 「建築環境設計 – 屋内視環境」 2007年 再始動

- 2006年 視環境に関するTG1(フランス, 日本, 韓国)  
CIEへの提案書作成と NWIP について議論  
ISO/NP 16817の投票 → WG7の再始動を目指す
- 2007年 ISO/NP 16817の登録 → WG7 専門家の推薦依頼  
2008年 3月 WG7パリ会議の開催を目指す  
※ CIEへのリエゾン再設置
- 2008年 ISO/WD 16817 → ISO/CD 16817  
※ CIEへのリエゾン代表決定
- 2012年 ISO 16817「視環境の設計プロセス」発行
- 続く … 昼光照明関連の規格提案  
(日本, 韓国)



## ISO/TC274「光と照明」のスコープ 2019年現在

### ○ TC274 「光と照明」 2012年 設置

国際照明委員会 (CIE) の業務項目を補完する特定の事例における  
照明応用分野の標準化と CIE原案の調整。理事会決議 42/1999 と  
10/1989に従い、視覚、紫外・可視・赤外領域にわたる自然放射と  
人工放射を含む測光と測色、および屋内外の光の利用すべて、  
環境的・非視覚的・生物学的な健康上の影響を含むエネルギー性能、  
照明に関する情報モデルシステムを対象とする応用テーマを扱う。

例えば … ISO 15469

CIE標準一般天空

ISO 8995-1

屋内作業場の照明

※ CEN/TC169

「光と照明」



# ISO/TC274「光と照明」の活動 2023年3月現在

- CAG 議長諮問グループ
- JAG 合同諮問グループ (ISO/TC274 と CIE)
- JWG1 建築照明のエネルギー性能 (CIE JTC6と合同)
- JWG5 作業場の照明 (CIE JTC15と合同)
- WG2 照明システムのコミュニケーション・システム
- TC205/JWG12



## TC274へ移管された既存規格

- ISO 8995 (CIE S 008) 「屋内作業場の照明」  
ISO/TC159/SC5 から移管
  - ISO 10916 「建築照明のエネルギー性能 - 昼光利用の影響度の計算」  
ISO/TC163/SC2 から移管
- ※ ISO/CIE 20086 「建築照明のエネルギー性能」 ⇒ [ISO 52000シリーズ?](#)

## TC205/JWG12 視覚に関する屋内環境(仮) 2022年

- TMB決議 52/2022 合同WGの設置

- Noting the request from ISO/TC 274 (Light and lighting) for the formation of a joint working group (JWG) with ISO/TC 205 (Building environment design) on Indoor visual environment and the response from ISO/TC 205 as presented in the June 2022 ISO/TMB working documents,

**屋内視環境に関するISO/TC205とのJWGの設立**について ISO/TC274 からの要請と 2022年6月のISO/TMB作業文書に示されたISO/TC205 からの回答に留意して

- Instructs the two technical committees to form a JWG on Indoor visual environment to develop new and revise as needed existing standards in this subject field,

**屋内視環境に関するJWGを設置し、この分野の新規規格の策定**と必要に応じて**既存規格の改訂**を行うよう、2つの専門委員会に指示する

## TC205/JWG12 視覚に関する屋内環境(仮) 2022年

### ○ TMB決議 52/2022 合同WGの設置

- Agrees that the administrative responsibility for this JWG is assigned to ISO/TC 205, with two co-convenors, one from each technical committee, each representing a participating member of their technical committee,

このJWGの管理責任を ISO/TC205に割り当て、各専門委員会から  
1名ずつ、それぞれが その参加メンバーを代表する  
2名の共同コンヴィーナを置くことに同意する



### WG7 ⇒ JWG12 移管された既存規格と新業務項目提案

- ISO 16817 視環境の設計プロセス (フランス)
- ISO 19454 視環境のサステナビリティの原則を考慮した  
採光用開口の設計 (日本)
- ISO/NP 20734 屋内視環境のための昼光照明設計方法 (アメリカ)



## TC205/JWG12 視覚に関する屋内環境(仮) 2022年

### ○ TMB決議 52/2022 合同WGの設置

- Instructs the two committees to conduct the work of this JWG:
- In compliance with Clause 1.12.7 of the ISO/IEC Directives, Part 1, 2022 edition,
  - With a balanced number of participating member countries from each technical committee,
  - With a limited number of experts (three maximum) named by each participating member country or liaison organization represented on the JWG.

このJWGの業務を行うよう、2つの専門委員会に指示する

- ISO/IEC専門業務用指針 第1部 2022年版の条項 1.12.7に準拠
- 各専門委員会から数のバランスが取れた参加メンバー国による
- 各参加メンバー国またはJWGに参加するリエゾン機関に  
よって指名された限られた数の専門家(最大 3名)による



# TC205/JWG12 視覚に関する屋内環境(仮) 2023年

## ○ メンバー構成 2023年 3月現在

	TC205	TC274
専門家	日本 	カナダ 
	フランス  2名	イギリス  2名
	アメリカ  1名	ドイツ  1名
		デンマーク  1名
		中国  3名
		スウェーデン  3名
リエゾン	-----	CIE 2名

※ TC205側の参加国が少ない

## ○ 2023年 3月 タイトルとスコープの定義に関する特別グループ

# TC205/JWG12 WG7から移管された新業務項目提案

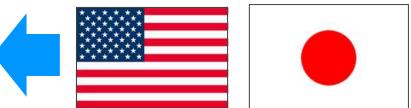
## ○ ISO/NP 20734 「屋内視環境のための昼光照明設計方法」の主要点

すべての人のために 十分な**昼光**と質の高い**眺望**を確保し  
建築設計とインテリアデザインの調和を図る



### ➤ 昼光環境の設計要素

- ・ 質の高い**眺望** (**窓外の環境情報** ; 視界)
- ・ 昼光照明と質の高い眺望の設計プロセス



### ➤ 屋内視環境のための質の高い昼光照明と眺望の設計プロセス

- ・ **コミッショニング**・測定・検証
- ・ **居住後評価 (POE)** **利用者の満足度**を重視  
利用者の満足度に関する性能基準
- ・ **再コミッショニング**・測定・検証
- ・ **継続的な改善**

成果主義の  
建築設計

## TC205/WG7 新しいタイトルとスコープの案 2023年1月

### ○ タイトル案

User well-being and satisfaction through outcome-based building design including nature and biodiversity

自然と生物多様性を含む成果主義の建築設計による利用者の幸福と満足度



## TC205/WG7 新しいタイトルとスコープの案 2023年1月

### ○ スコープ案

業務領域は、すべての建物・屋内空間・建物の構成要素（窓とその他の開口）と表面を含む。その主な関心事は、人間の幸福である。もっぱら人間の要求は、作業性能と健康・安全と幸福の要素を含み、それは、バイオフィリックデザインを含む社会的・生理的・心理的要因に加え、質の高い眺望が得られることを含む。

設計では、空間の建設・改修・設置・保守・運用・エネルギー使用を考慮する。一般化された設計基準の考慮に加えて、設計プロセスには、居住後評価を含めなければならない。

建築的要因には、すべての空間に関する形態・構成・様式・材料・該当する規則 / 基準が含まれる。



# TC205/WG7 新しいタイトルとスコープの案 2023年1月

## ○スコープ案（つづき）

異なる国において、異なる慣例を考慮しても、できれば同じ文書と  
同じ設計プロセスが適用できるように協力が必要である。

すべての市場について定義された製品とサービスの顧客は、次の通り  
である：

- ・ 消費者 居住者、建物の所有者、事業者
- ・ 政 府 影響を受ける市場に関する規制を担当する公的機関
- ・ 産業界 独立した建築研究所、業界団体、その他の研究機関
- ・ その他 研究機関、独立した試験所と認定機関、国と地域の  
標準化団体(非政府)、建築家、設計者、  
コンサルティングエンジニア

